

後輩たちの希望の灯台へ 創立者、両親への報恩の道を歩んでいきます

私は1年間の浪人生活を
経て、2008年に創価大
学経営学部に入學しました。
入學式の際、創立者はスピ
ーチのなかで、「一人もも
れなく、偉大な使命に生き
よ」と英語で呼びかけてく
ださいました。しかし、当
時の私は「使命」と言われ
ても、いまいちピンと来ま
せんでした。

その後、最高に充実した
創大生活を送り、2013
年に卒業。現在、外資系
IT企業に勤務しています。
今、「創価大学」の看板を
背負って奮闘する日々のな
かで、創立者の入學式での
スピーチの意味を噛みしめ
ています。



宮地 英俊 さん (経営学部 2013年卒業)

努力の末、特待生 にも採用、念願の 交換留学へ

で亡くし、父子家庭になり
ました。父は必死に働いて
くれましたが、それでもな
お家計は苦しく、「大学に
行くなら自分でお金を工面
しないといけない」と思っ
ていました。地元大阪の公
立高校を卒業後、一年間浪
人し、苦学の甲斐あって、
創価大学に特別奨学生とし
て入学できました。

金銭的な余裕はまったく
ありませんでしたが、「お
金がないからできない」で
はなく、「やりたいこと
のためにお金を工面する」と
決意しました。奨学金の貸



与を受け、生活を切り詰
めてアルバイトを減らし、勉
強時間を少しでも確保しよ
うと必死に挑戦。大学2年
次には特待生にも採用され、
念願かなってインド・デリ
ー大学に交換留学するこ
とができました。

その他にも、海外インタ
ーンを含む4社でのインタ
ーンシップ、3回のビジネ
スコンテスト、一人旅、創
大実行委員会等と、自分
が学生生活を通して挑戦し
たいと思ったことは、すべ
てやり尽くすことができま
した。

就職活動では何度も行き
詰まりましたが、先輩や卒
業生の方々の大きな支えが
あり、現在勤めている企業
への就職を勝ち取ることが
できました。

母の思いに導かれて

私には忘れられない母と
の思い出があります。それ
は私が小学6年生のとき、
闘病中だった母は、私に関
西創価中学校の受験を勧め
てきました。「絶対に受け
ない」。地元の友人たちと
離れたくなかった私は頑な
でした。何度も母に説得さ
れましたが、拒み続けてい
ました。

そのような中、母の容態
が急変。意識が朦朧とする
母を少しでも元気づけたい
と、私は「関西創価中学校
を受けるよ」と泣きながら
母に伝えました。その日か
ら母が亡くなるまで、意識
不明の母が横になっている
ベッドの隣で、黙々と勉強
しました。

結果的に付け焼刃の勉強
では歯が立ちませんでした
が、母の思いは、無念さ
とともに私の胸に強く残っ
ていました。

そして、高校生になり、
部屋の荷物を整理するなか
で、母が生前書いていた日
記を見つけた。そこには、
「英俊を創価大学に行
かせたい」「英俊が世界中
のひとの役に立てる人材に」
と、私のことが何度も何度
も綴られていました。

あの頃、想像すらできな
かった今の私があるのは、

創大Days

GLCや宮地さんへのインタビューなど
さらに詳しく知りたい方は
創価大学ホームページをご覧ください



GLCの学生たちと

すべて母のお陰です。母の
思いに導かれ、創価大学で
かけがえのない経験をする
ことができました。

入学後、創大の雰囲気
に馴染めず、悶々としたとき
も、母の思いに守られ、多
くの友と出会い、自分の心
が変わっていくのが分かり
ました。

卒業してもなお、大好き
な創大に毎週のように戻り、
「親孝行をするんだ」と学
生を励ます今の私を、母は
満面の笑みで見守ってくれ
ていると、強く確信します。

後輩たちの希望の灯台と
なっていけるよう、創立者、
そして両親への報恩の道を、
これからも歩み続けていき
ます。

お問い合わせ先

創価大学 学生課 奨学金係

042-691-2161

FAX 042-691-9475

平日/9:00~17:00 (土曜 9:00~12:00、日・祝日除く)

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236



syougakukin@soka.ac.jp



★奨学金の情報は本学ホームページにて詳細を公開しています。情報は今後更新される場合がありますので、必ずご確認ください。

▲本学奨学金ホームページ